

相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由

私がこのテーマを設定した理由は、舞姫という作品が豊太郎の視点から書かれていて、相沢がエリスに伝えたことが悪いことだったように読み取れたので、豊太郎の視点からは離れて、相沢の視点から一連の出来事に対するとらえ方、そして相沢がエリスに伝えようと思った経緯までをたどり、相沢から伝えたということの意味を考えようと思ったからだ。相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由は、豊太郎がエリスに伝えることはできない、また相沢からエリスにすべて言ったほうが豊太郎とエリスが離れやすくなる、そう思ったからだ。

まず、豊太郎と相沢という二人の人物像から考える。相沢は国家有為の人間になることが人生の目的であると考えていて、“凡庸なる諸先輩(豊太郎を猜疑した連中)を罵り”、また伯爵に事実を曲げたことは言えないという相沢の言葉からもわかるように、曲がったことが嫌いな人物であった。だから、豊太郎の“長者の教へを守りて”、ほかのことに心を乱されることのない“耐忍勉強”の姿は相沢にとってとても理想的だった。さらに、“太田豊太郎といふ名はいつも一級の首にしるされ”、太政官という最高官庁で官庁の信任が格別に厚いなかで働いていた。まさに国家有為の人間だったのだ。相沢はいつしか豊太郎のような人間になることが人生においての目標となり、手本としていたのだろう。それゆえ、豊太郎が免官になったことは相沢にとって大きなショックであり、豊太郎を手本に生きてきた相沢自身のために、豊太郎を再び品行方正の道に戻そうと思ったのである。

次に、相沢のとった行動から考える。先にも述べたように相沢は、優秀だった豊太郎の免官とその理由が信じられなかったため、豊太郎から詳しく話を聞いた。そして、豊太郎の弱い心からこの一連のことがあり、豊太郎にエリスへの想いが真剣であっても道からされる勇気がないのだとわかる。自分に腹を割って話してくれた決断力のない親友を従来の道に連れ戻すことが自分には容易いことだと思った相沢は、豊太郎に忠告をしたのだ。そして天方伯からの信任によって豊太郎は再び国から必要とされることに喜びを感じ、本来の目的ある人生の戻ると思っていた。ところが、相沢は豊太郎を尋ねたとき、豊太郎が相沢に隠していたことを知ってしまう。自分や天方伯から後押しされても一人の女と別れることができない豊太郎に、自分の子を身ごもった女を見捨てる決心は待っていてもできないと気づくのだ。これが豊太郎に伝えることができないと思った理由である。そして、豊太郎が寝込んでいる間にエリスたちの生活を援助することで、エリスが相沢の言うことを受け入れる、つまりエリスに豊太郎の帰国を引きとめられないようにしたのだ。また、もし豊太郎から言われれば、今までエリスが騙されていたことは事実だが、それは豊太郎の心の弱さゆえに起こったことだとエリスは彼をかばって許し、真実を言ったことに誠意すら感じるかもしれない。しかし相沢から言えば、エリスは豊太郎をかばうどころか、真実をずっと隠されていたのだとショックを受け、エリスを裏切った以上、豊太郎にはドイツに残る勇気はないはずだと考えた。この二つの理由から、相沢は自分がエリスに言った方

が二人が離れやすくなると思ったのだ。

以上のことから、相沢は豊太郎からエリスに伝えることはできない、また相沢から言った方が二人は離れやすいと思ったのだと考えた。

便覧179ページと本文訳を参考にした。